



「進学の熊西」熊谷西高等学校 進路主事だより



West (第2号)

2023.4.14. 平井 利久

「2年間を見通した進路の心構え」

■ **2年 2月共通模試が本番との相関関係あり【重要】**
⇒ **3年6月マーク模試へ長期的対策を！**

高2生が注意するポイントは、「共通テスト1年前の学力」と「高3夏休み明けの学力」
模試では、高2・2月全統共通テスト模試と3年6月進研マーク模試です。
高2全統共通テスト模試で7割取れば、難関大学合格率は7割との相関関係があります。

- 4月 「勝負の2年生」スタート／大学入試は、2年時に蓄えた力で決まる！
～ 基本的学習習慣を再確立する ～
- 5月 高2最初の定期テスト／学習・進路への意欲の高まり、テスト後のしぼみを防ぐ
～ 進路目標を再確認する ～
- 6月 高校2年3か月目／体育祭などを利用しHR 集団も活性化する → 学習への転化
～ 中堅学年としての意識を高める～
- 7月 期末考査に向けて・夏休みへの備え／各大学オープンキャンパス開始
2年7月進研模試で前半期の成果確認と弱点克服を！
- 8月 高校3年間の節目となる夏休み / 自主学習の推進 ～ 西高祭を成功させる～
- 9月 高校後半スタート／学年、HR集団の再構築で中だるみを防ごう
～ 中だるみの防止と勉学への転向～
2年第2回スタサポで、2年11月模試に向けた弱点克服を！

★★理社で勝負を！ ここで成果を出せば先を維持できる！

理社を1学期の定期テスト直前レベルまで高める＋定期テスト勉強

全統共通テスト高2模試までに11月に模試（ベネッセの総合学力テスト）があります。高校2年の11月までは出題教科が英語と国語と数学の3つに限られています。理科と社会は高校2年の11月以降に初めて出題教科となります。この模試ではなによりも理社の偏差値を取りに行くべきです。ここで志望校偏差値+5を理社で出す。理社を得意科目に。

理社を対策すべき理由1：範囲が狭い

英国数と比較し、この時期の理社の範囲は、学習範囲が狭く、復習に時間がかからない。

理社を対策すべき理由2：偏差値を上げやすい

これまで学校の定期テストで出題されてきた内容を復習するだけでも他の受験生より高い偏差値をとることができます。この時期の理社が模試の中で最も短期間で確実に偏差値を上げることのできる科目です。それまで英語、数学、国語の偏差値が45付近の生徒でも、社会や理科で偏差値60オーバーを取るのとは不可能ではありません。

理社を対策すべき理由3：志望校に先行した状態で推移できる

もし11月までに理科と社会で苦手な範囲があったとしても、この模試の勉強が復習になり、理科と社会を模試範囲までひと通り学習したことになります。理社で志望校の偏差値に先行できることで、それ以降も、学校の定期テストのたびにしっかりと勉強し、模試でその復習をするというサイクルを繰り返していただいても高い偏差値を維持しやすくなります。

10月 1年後に共通テスト出願/活力ある集団で切磋琢磨し、進学への意識を高める
定期テスト(2学期中間) 理社で高得点。11月模試まで理社の範囲全復習。

★11月 3年ゼロ学期へ ~進学への意識づけ/進研模試を利用した志望校の絞り込み~
★★2年11月進研模試は、2年最重要模試！ 5教科模試への意識を！
ベネッセ総合学力テスト・記述 理社第1志望校偏差値+5を目指す

12月 「入試まであと1年」の1月スタートの仕込み ~学力を客観的に認識する~

定期テスト(2学期期末)を理社で高得点 → 理社の弱点がなくなる

英数国の対策が不足している科目や、共通テスト形式での演習を積む。理社は直前の定期テストの範囲はまだ記憶があるので、11月模試までの復習に比重を置く。英数国の重点科目を中心に。

1月 入試まであと1年/3学年は共通テスト直前, 3年0学期の意識を！

2年1月進研模試は**難易度が上昇**、万全の対策で！

2年生の1月という受験まで残り1年ある状態で合格可能性50%以上を出しておく、合格者平均に近い状態で勉強をしていくことができるようになります。これがたまたま取れてしまったC判定ではなく、戦略を練って取りに行き達成できたC判定であれば、簡単にはこの偏差値は下がらない。

★2月 1年後には受験真っ只中 → 進路目標の具体化

★★2年共テマーク模試で、3年6月マーク模試を意識した長期的対策を！

★★全統共通テスト模試は共テを見据えた最重要模試 ⇒ 本番への相関関係

3月 「高校生」から「受験生」に変えていく ~受験生としての自覚 ~

★始業式までの1か月 = 夏に劣らず重要(3年0学期ラスト)

新3年生第1回スタサポで基礎を確立

■ **3年 3年6月模試が本番との相関関係あり【重要】!**

「3年生になったら勉強する」「〇月になったら勉強する」「部活が終わったら勉強をする」
このように今できないことを肯定し、未来の自分に責任を丸投げする人も多いと思います。
ですが、いざその時期になったからと言って、そんな簡単には変わりません。

4月 「受験は団体戦」受験学年スタート / 授業をペースメーカーにした受験勉強の態勢づくり

5月 連休前後の意識が肝心 ~隙間時間の有効活用と模試の挑戦~

★6月 部活の引退 / 受験の態勢への切り替えとドライブをかける時期 / 基礎学力の充実
~部活動での完全燃焼~

★★3年6月ベネッセ共テ模試は重要模試！ 入試本番との相関関係あり

4月~6月のスタートダッシュの成果を！

6月模試から本番まで最低110点伸びるような問題作成

- 7月 '入試の天王山'の夏への態勢づくり → 入試実践力の向上
 ～学習への切り替え 学力の充実～
 3年7月ベネッセ記述模試で振り返りを。夏休みの計画に反映を！
- 8月 '本格的な受験勉強'・**夏の時間は400時間!** / オープンキャンパス参加
 ★9月 受験本番を意識して学習する, 受験学年後半のスタート ～最後の西高祭で完全燃焼～
★★3年9月駿ベネ共テ模試 10月記述とのドッキング判定を行う重要模試
 夏休みの成果を出したい！
- ★10月 入試本番3か月前(100日前) → 応用力の養成 現実的な選択に向けてすり合わせ
 ～E判定はイイ判定・D判定は大丈夫～ 二次力の把握を!
 E判定はC判定から偏差値5以上離れたらすべてE判定となるので、他の判定と異なり非常に幅が広い。
★★10月駿ベネ記述模試 9月マークとのドッキング判定を行う最重要勝負模試
- 11月 模試ラッシュ/あせり, 不安, 動揺の時期/体調管理
 3年11月駿台ベネ共テ模試
この模試から本番まで最低50点伸ばすことができる・絶対に諦めない!
- 12月 共通テスト1か月前 → 最終志望校, 出願, 併願パターンの練り上げ!
 ～共通テストへの追い込み・中後期まで粘る意識作り～
 12月末の共テ直前演習で最終チェックを行いたい
- 1月 進路の最終決定/国公立大個別試験, 私大出願
- 2月 二次こそ本当の勝負/大学入試たけなわ ～二次学力完成・三年間の総仕上げ～
- 3月 卒業/それぞれの進路での, 新しいスタートへ ～合格決定・旅立ち～

【3年生を迎える】 受験勉強の習慣化まで2ヶ月以上必要!

受験勉強に必要な時間は、国公立大学志望なら2500～3500時間、私立大学なら2000～2400時間が必要とも言われています。それだけの勉強時間を確保し、効率よく学習を進めるには、しっかりと考えてスケジュールを立てることが大切です。

高校3年生の4月から共通テストの受験日まで、家庭で学習可能な1日あたりの時間数は、平均で平日が6時間、土日が12時間と考えると、合計は2292時間になります。

ここから学校関係で使用する時間を削っていきます。

部活の時間：216時間（5月末に引退〈8週間〉。平日で3時間、土日6時間と考えた場合）
 定期テストの勉強時間：216時間（定期テストが4回で期間が延べ2週間、勉強時間が平日3時間、土日6時間と考えた場合）

課題の時間：266時間（夏休み等を除いて延べ38週間で1日1時間を費やすと考えた場合）

模試の時間：180時間（延べ15日間で、復習もしっかり行う〈1回12時間〉と考えた場合）
 合計878時間。

4月からの合計2292時間から引くと1414時間になります。特に国公立のような多くの科目を必要とする場合は、1科目に当てられる時間は少なくなります。もしここから過去問演習の時間を除くと、国公立の場合は実際には1000時間少ししか残らなくなります。

時間は有限です。受験日は決まっています。自分が行動しなければ時間を増やすことはできません。学校の授業時間を受験勉強にも活かし、朝学や隙間時間を有効に使いながら、その質を高めることが合格に重要になってきます。